

活動報告

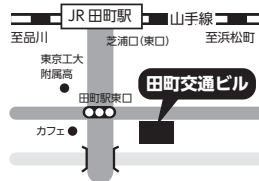
- 7/21 神楽坂のキイトス茶房にて「税金カフェ」(開会挨拶:弁護士 宇都宮健児、講師:税理士 内田麻由子)を開催しました。参加者約40名。
- 7/30 信州大学にて、長野集会を開催しました。参加者約70名。埼玉大学准教授の高端正幸氏による基調講演、和光大学教授の竹信三恵子氏による講演、合田寛氏よりパナマ文書とタックスヘイブンについての報告などがありました。
- 9/10 天神チクモクビルにて、福岡集会を開催しました。参加者約60名。宇都宮健児による講演、佐賀弁護士会の辻泰弘氏より日弁連の取り組み報告、和田聖仁氏よりパナマ文書とタックスヘイブンについての報告、鹿児島大学法科大学院教授の伊藤周平氏による総括講演などがありました。
- 9/30 浦和のカフェ土瑠茶にて「税金カフェ@浦和」(講師:税理士 近藤克彦、ゲスト:NPO法人ほっとプラス代表 藤田孝典氏、弁護士 宇都宮健児、税理士 内田麻由子)を開催しました。

開催予告

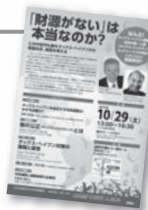
「財源がない」は本当なのか? ~3,000兆円も眠るタックス・ヘイブンから 格差社会、税制を考える

お申込み
不要

- 日時 2016年10月29日(土)
13:00~16:30(受付開始12:30)
- 会場 田町交通ビル6Fホール
港区芝浦3-2-22 JR「田町駅」芝浦口徒歩3分
- 資料代 1,000円



- ミニ講演: 宇都宮健児氏・雨宮処凛氏
(公正な税制を求める市民連絡会 共同代表)
- 基調講演: 「税の公正(タックス・ジャスティス)とは」
ジョン・クリステンセン氏
(タックス・ジャスティス・ネットワーク代表)
- 報告: 「タックス・ヘイブン対策の課題と提言」
ジョン・クリステンセン氏
フリシェン・メータ氏
(タックス・ジャスティス・ネットワーク シニア・アドバイザー)
- 総括: 合田 寛氏(公益財団法人政治経済研究所理事)



税金カフェ

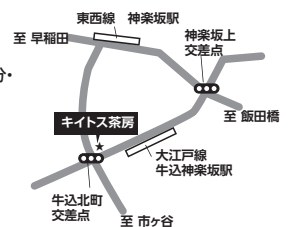
日時 2016年11月21日(月)
18:30~20:30(受付開始17:30)

会場 キイトス茶房

新宿区単箭町25野吾ビル2F
大江戸線「牛込神楽坂」A1出口徒歩1分・
東西線「神楽坂」2番出口徒歩5分

参加費 1,500円
(ワンドリンク付。当日会場にて)

定員 30名



第1部「やさしいピケティ入門」

講師: 竹信三恵子 氏(和光大学教授)

第2部「公平な税・公正な税とは?」

講師: 内田麻由子 氏(税理士・市民連絡会「税金カフェ」担当)

【お申込み】FB、Eメールinfo@n-sk.org(内田)
☎03-6454-1567(内田麻由子会計事務所)

個人会員・団体会員を募集中!

入会された方には年4回、会報を郵送します。また会員専用ML(メーリングリスト)にもご参加いただけます。▶P7右上参照

入会方法

- ①ホームページより入会申込書をダウンロードして、お名前・ご住所等をご記入のうえ、事務局へFAX(048-866-0425)にてお送りください。
- ②年会費をお振込みください。会計年度は毎年4月1日から翌年3月31日までです(年の中途で入会した場合でも年会費の月割りはありません)。

年会費

団体1口/1万円 個人1口/2千円 学生1口/500円

振込先

ゆうちょ銀行 口座名義:公正な税制を求める市民連絡会
【ゆうちょ銀行から振込みの場合】
記号番号:10160-446381
【他行から振込みの場合】
ゼロイチハチ(018)支店 普通預金 口座番号:0044638

編集後記



■リオ・パラリンピックの開会式では、障害のある人もない人も、皆が笑顔で喜びを分かちあう姿に感動しました。相模原の事件の容疑者は「障害者に税金が使われるのは無駄だ」という趣旨の発言をしていたようですが、彼は「税金の意義」をまったく取り違えています。税金は、障害者や子どもや、病気や事故や高齢で働けない人や、災害にあった人など、弱い立場の人のためにこそあるのです。そして彼と同じように罪を犯して刑務所に入っている人のためにも……。 (内田)

■タックス・ジャスティス・ネットワーク(TJN)のクリステンセン代表の来日もいよいよ迫ってきました。クリステンセンは世界のタックスヘイブン・ネットワークの中心、ジャージー島で会計事務所に勤務した後、ジャージー政府の経済顧問としての10年間にわたる経験を経て、タックス・ジャスティス運動の世界に身を投じた人です。その経験と教訓を学ぶことによって、私たちは大きな勇気と展望をもちあうことができるでしょう。(合田)

迫り来るAI失業危機に どう対応するのか

しばた たけお
柴田 武男



1952年東京生まれ。東京大学大学院経済学研究科第二種博士課程満期退学。公益財団法人日本証券経済研究所主任研究員を経て、現在聖学院大学政治経済学部教授。専門は金融市場論で最近の研究テーマは奨学金問題。

米の新興企業が、自動運転自動車によるタクシーサービスをシンガポールで開始したというニュースが最近ありました。2019年にはクルマメーカーは「自動運転システム」を買えるようになると自動車部品メーカーが豪語しています。自動運転になれば運転者は必要ありません。タクシーの運転手は失業です。これは運転手だけではないと警告している話題の本があります。「機械に奪われる仕事、生き残る仕事」という刺激的な副題の『AI時代の勝者と敗者』*1では、「アメリカの47パーセントの仕事が絶滅の危機に瀕している」というオックスフォード大学の研究を紹介しています。ほぼ半分の仕事が近い将来無くなるというのです。

自動運転が実現すればタクシーの運転手は必要なくなります。これはよく分かります。それだけでなく、高度な専門的職業人とされる会計士・弁護士などの仕事も激減します。会計ソフト、判例検索ソフトなどが充実してきて、五人でやっていた仕事が三人で、三人から二人へということは現実に起きています。ただし、それは過渡的な現象で、自動化で仕事がなくなるというのは「ラダイトの誤謬」*2だとする主張があります。現にこれだけ技術が進化した現在も労働力不足ではないかと。

また、すべての仕事がなくなるわけではないから、コンピューターと争う必要は無いという考えもあります。熊との遭遇の例を思い出せと。熊より速く走る必要は無いのです。一緒にいた友人より速く走れば良いということです。それでも、「経済的価値のない市民」が無数に現れるだろうという予測は強いものがあります。仕事が得られない、即ち「経済的価値のない市民」とはなんとも残酷な響きの言葉

です。ではどうすれば宜しいのか。

スイスでベーシックインカムを巡って今年六月に国民投票が行われ、賛成23%、反対77%で否決されたのですが、提案内容は「すべての国民を対象としてベーシックインカム制度が制定されること。制度の詳細については政府が検討する」という曖昧なものです。大人一人月2500スイスフラン(約27万円)というのは、実施されたらそれくらいの金額になるだろうという推定です。

「IT技術やロボット技術が今後さらに発展して、人間の仕事が機械に置き換えられる時代が来ると言われていますが、そうなれば人間がする仕事はどんどん減ってくるかもしれません。そんな時代に、私たち人間は何をすればいいのでしょうか?」*3という危機感が提案理由の一つです。

大事なポイントは、「人間の仕事が機械に置き換えられる」ということです。仕事が無くなるのではなく、機械が代わりにやるのですから社会に生み出される富は変わりません。人間の仕事としての賃金形態を取らないことが問題なのです。そこで起きるのが、残存者利益で高収益の仕事にしがみついている人と仕事がなくなりがって「経済的価値のない市民」とされる人との二分化です。究極の格差社会です。その問題に対応する提案としてスイスのベーシックインカム論があるのです。

ベーシックインカムが有効な対策になり得るのかはひとまず置いて、一部に集中する富をどう再配分するのが、問われているのです。社会の富は生み出し続けられていま

書籍紹介

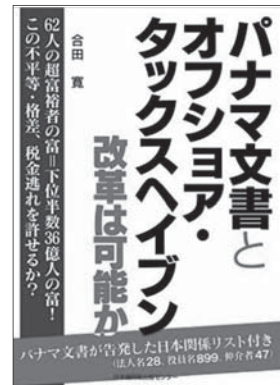
公正な税制や社会保障制度とは何かを考えるためのヒントとなる書籍を紹介します。

合田寛

『パナマ文書とオフショア・タックスヘイブン—改革は可能か』

今年5月、パナマ文書が発表され、世界に大きな波紋を及ぼした。本書は、パナマ文書とは何か、タックスヘイブンとは何か、オフショア・タックスヘイブンの何が問題かについて、わかりやすく解説している。また、多国籍企業による税逃れに対する国際的な取り組みの内容や、改革の可能性についても言及している。さらに、巻末には、パナマ文書に記載された日本関係法人・役員名のリストも掲載。また、タックス・ジャスティス・ネットワーク(TJN)の運動とその歴史についても紹介している。著者は、長年タックスヘイブン問題に取り組んできた第一人者である。タックスヘイブンについてより詳しく知りたい人は、合田氏の著書『タックスヘイブンに迫る—税逃れと闇のビジネス』(新日本出版社)を読みたい。

(書評：内田)



日本機関紙出版センター
800円+税

井手英策『18歳からの格差論』

著者が本書で紹介する「必要の政治」とは、人間が安心して暮らしていけるための、まわりの人に優しくいられるための条件を考えたものである。育児・保育、教育、医療、介護、障がい……人間が人間らしく生きていくためには、さまざまなサービスが必要だ。このサービスをみんなが受け取り、かわりに必要な財源をみんなで分かち合う、そんな可能性を著者はやさしく問いかける。人間の違いではなく、人間の共通性に想いをはせ、いまの日本を覆っている「分断社会」をいかに終わらせるか。みんなががんばるための土台をみんなの税でささえ、勝者には拍手を送り、敗者に思いやりを持てる社会をつくるにはどうすればよいのか。本書をヒントに、家族や友人など身近な人とぜひ話し合ってみたい。

(書評：内田)



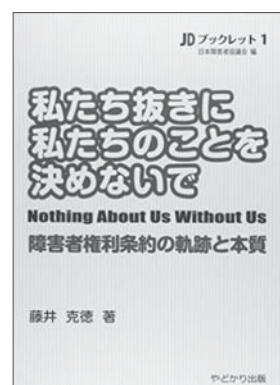
東洋経済新報社
1000円+税

藤井克徳『私たち抜きに私たちのことを決めないで—障害者権利条約の軌跡と本質』

「Nothing About Us Without Us! (私たち抜きに私たちのことを決めないで)」。

国連における議論でこの言葉が響き渡っていた。著者は、権利条約策定の作業段階から日本での批准に至るほとんどの場面に関わり、その先頭に立って奮闘してきた。本書は権利条約の歩みとその本質について解説している。さらに、批准を受けての当面の政策課題として、①家族依存からの脱却 ②谷間の障害問題の解消 ③本格的な所得保障制度の確立 ④障害者差別解消法の実質化 ⑤社会的入院・社会的入所問題の解消 ⑥地域生活を支える社会資源の質と量の拡充 ⑦ディーセントワークの視点での就労支援策の拡充 ⑧アクセシビリティ、ユニバーサルデザイン政策の推進 ⑨基礎データの集約・蓄積 ⑩障害者政策関連の予算確保を提言している。いずれも喫緊の課題であり、私たち一人ひとりが問題意識を持つことが大切だ。

(書評：内田)



やどかり出版
926円+税



\\ 会員の皆様といっしょに作るページ //

「公正な税制を求める市民連絡会」は、「個人会員」

7月21日に神楽坂のキイトス茶房にて開催した「税金カフェ」にご参加いただいたみなさまの感想文をご紹介します。



仕事を通じてしか意識しなかった税制を、内田麻由子先生の講義で生活に密着させて考えられるようになりました。教育資金の贈与税非課税に見られるように、全体の制度が国の負担を個人に付け替えるように改悪が進んでいることが実感としてわかりました。講義では、お布施と税金をたとえ話で挙げていました。布施は喜捨とも言いますが、一度手を離れたら思いを残してはいけないという意味で「捨てる」という字が使われるとある住職から聞きました。ところが税金はそうあってはいけません。国民は、何処までも、その収入のあり方と使われ方を追跡して、正しく使われるように監視・追究することが必要と改めて感じます。例えシッコイといわれようとも。 (平石泰基)

正直にいうとわたしはできるなら税金を払いたくないです。どちらかといえば収入は低い。消費税があるため生きるために何か買っても税金がかかるのでそれで充分ではないかと感じています。嫌なことの代表なので税金のことはあまりよく知りませんでした。内田税理士のお話で少し税金のことを整理して考えるきっかけとなりました。宇都宮弁護士からは人権という観点から見た憲法と財政というお話がありました。憲法は少数の弱い立場にある方々の人権を守るためにあるとお話はとてもいい意味でのショックを感じました。民主主義のはずの国会は与党が多数のうてでまったく少数の声が反映されていない。現実がまったく憲法においついていないのです。消費税の増税ありきで議論が進んでいるのも憲法の精神よりも数の論理で進んでいるだけのことだとわかりました。税金のことはわかりにくいけれど、多くの方が関心をもつテーマだと思います。受身ではなく自分としても草の根運動の波をおこしたいと考えています。 (河嶋暁久)

第1回目の税金カフェにはるばる三重から参加しました。「財政難と繰り返すにもかかわらず、増税の議論になるのは消費税だけ」「国民は増税と社会保障切り捨ての一方、アマゾンやスターバックスなどの多国籍企業はほとんど法人税を納めておらず、3大メガバンクとソフトバンクの納税額も実効税率の1%以下」、「公正さ」を欠いた今の税制が、宇都宮先生のお話から浮き彫りになりました。「公平」と「公正」は違う。公平である上に社会正義を実現するのが「公正」な税制です。人権を守る立憲主義に基づけば、本当に国民に必要な政策のために予算を立て、必要な税収は負担すべきところから徴収する形に変えなければなりません。大企業や財界が、巨額の献金で有利に作る税制ではもうダメです。しっかり「モノを言う」納税者になって、あるべき税制と、税金を託すことの出来る社会を創らなければ、という内田先生の言葉に深く共感しました。 (清水匡史)



私は、税金の仕事をして20年以上になる。私の感覚として、税金が年々不公平になっていくような気がしていた。しかし、なぜそうなるか、納得いく説明は聞いたことがなく、一人悶々としていた。今回参加して、こういった私の疑問が少し氷解したように思える。よく税の3原則は『公平』『中立』『簡素』と言われるが、内田先生が示された『公正』『人権』『連帯』という話は、これからの税金のあるべき柱だと思えた。さらに、宇都宮先生の「税の3つの役割のうち、所得再配分についての機能が失われつつある」といったお話は、まさに今、私たちが考えるべきことを示されたように思う。今後も参加し、あるべき税制を考えていきたいと思う。 (小松康之)